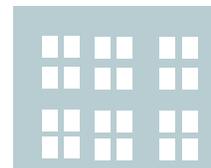


京都女子大学 × UR



洛西NT団地リノベーションプロジェクト

STYLE 2022

京都女子大学×URの取り組み

「京都女子大学×UR 団地リノベーションプロジェクト」は、UR 都市機構西日本支社と同大学家政学部生活造形学科の連携により2013年から始動しました。リノベーションの拠点である洛西ニュータウンは、はじめの入居から40年以上が経ち、現代のライフスタイルに適した住戸が求められるようになりました。そこで、学生の斬新なアイデアを住戸に吹き込み新たな空間を創造しようという考えのもとプロジェクトがスタートしたのです。プロジェクト発足から10年を迎えた今年も4月からプロジェクトがスタートし、この冬新たにStyle2022の2戸が誕生しました。



洛西福西公園団地

洛西福西公園団地には子供から大人まで幅広い年齢の方々が緑豊かな自然に囲まれながら、のびのびと暮らしています。

洛西ニュータウンの中でも東部に位置する洛西福西公園団地は大通りに立地しているため、バス利用もしやすく快適な団地ライフを送ることができます。

Style2022 スケジュール

4月



現地見学会

6月



コンペ発表会

8～10月



現場打ち合わせ

5月



相談会

7月

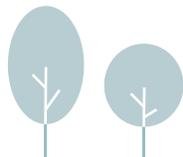


表彰式

11月



竣工～
インテリアコーディネート



plan 01

- 学長賞 -

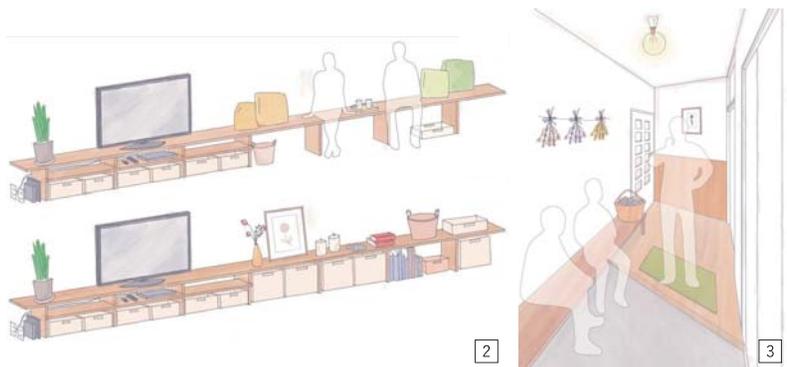
ひととき

川崎 智絵さん・菊田 衣純さん

CONCEPT

「木のベンチで繋がるみんなの暮らし」

木の質感を大切にしたベンチを2カ所に設計しました。このベンチで「人」との繋がりを深め、日常に「木」を取り入れ、「人と木」が共に暮らすことを目指しました。「人」との距離が近いという団地の良さを活かして素敵な「ひととき」を過ごしてほしいです。



before



after



DATA

面積：63.61 m²
3DK ▶ 2LDK

- 1 和室
- 2 LDK
- 3 玄関
- 4 個室

造り付け家具

1m

住まいのポイント

1 木のぬくもり

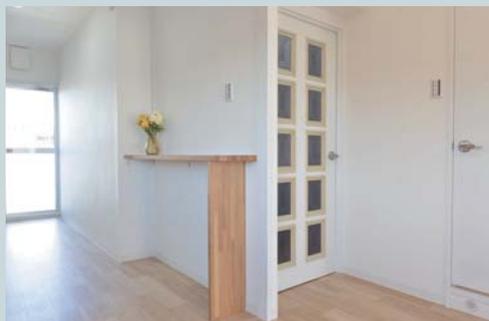
オーク調の床材をベースに、寝室や玄関に天然木を使用した腰壁や、キッチンで重宝する木のカウンターを設けるなど、素材の良さを生かした温かみのある空間を演出しました。

2 人を繋ぐベンチ

ダイニングとリビングを繋ぐ木のベンチは大人数で腰掛けることができ、家族を繋ぐコミュニケーションの場として活躍します。また、玄関のベンチでは靴を履くために腰掛けるのももちろん、ご近所さんとベンチに座りながら世間話を楽しむ場にもなります。

3 収納力

ダイニングとリビングを繋ぐこだわりのベンチは、腰掛けることはもちろんベンチの下に大容量のものを収納することができます。また、既存の間取りを活かし玄関や寝室に部屋をすっきりと見せる収納を確保しました。





(左から)川崎智絵さん・菊田衣純さん

設計者の川崎さん・菊田さんにインタビューを行いました！

1 こだわりやポイント

聞き手：本日はお時間いただきありがとうございます。今回設計した「ひととき」のポイントやこだわりを教えてください。

菊田さん：作品名の通り人と木の共生をイメージしました。木をふんだんに使ったところがポイントです。

聞き手：実際にプレゼンボードに記載されていた無垢材を使って施工したのですか？

川崎さん：実際の無垢材はメンテナンスが難しいので…。ただ、ほとんどイメージ通りの色合いや質感に仕上げることは出来ました。

2 難しかったこと・苦労したこと

聞き手：設計中や施工中において難しかったことはありましたか？

菊田さん：設計中ではなるべく収納を減らさないよう意識しました。施工中は予算の関係で変更したり削ったりする必要があり、どこを変えるのか考えるのに苦労しました。

聞き手：実際にどこを削ったのですか？

菊田さん：造り付け家具の収納はほぼ削りましたね。パントリーは丸々なくなりましたし、玄関収納の形も変わりました。

3 どのような人に暮らしてほしいか

聞き手：どのような人に暮らしてほしいかイメージはありますか？

川崎さん：ベンチでつながりを表現したので、人とのつながりを大切にしているような人に住んでほしいです。あとは、家の中の暮らしを大切にしている人ですね。

4 自分の作品が完成していく様子を見て感じたこと

聞き手：自分の作品が実際に完成していく様子を見て感じたことはありますか？

川崎さん：パースで描いたところがそのまま完成したところを見て、自分たちの想像していたとおりになるのは凄いなと感動しました。

聞き手：完成して特にお気に入りの場所はありますか？

川崎さん：全体的にバランスを考えて設計したので、たくさんこだわりが詰まっているのですが、特にこだわった木の長いベン

チはすごく可愛く仕上がりました。あと個人的には和室がお気に入りです。

5 京女×UR Style2022に参加した感想

聞き手：最後に京女×UR Style2022に参加した感想をお願いします。

菊田さん：大学に入ってずっと参加したくて、ただ去年はコロナの関係で開催されなかったのが、今年は参加することができて良かったと思います。そのうえで、学長賞という素敵な賞をいただけたのがすごく嬉しいです。過去にもリノベーションのコンペに参加したことがあったのですが、毎回大事なポイントが違って、今回は今後量産していくことがポイントだったので、そういう面で難しかったところもありますが、完成した住戸を見るとやってよかったと思います。

聞き手：実際に写真撮影の際にお部屋に入らせていただいたのですが、すごく魅力的な住戸でした。本日はお忙しいところお時間いただきありがとうございました。

plan 02

- 優秀賞 -

つくり・つながる暮らし

吉村 さわさん

CONCEPT

「こだわりの“住”を作ることができる住まい」

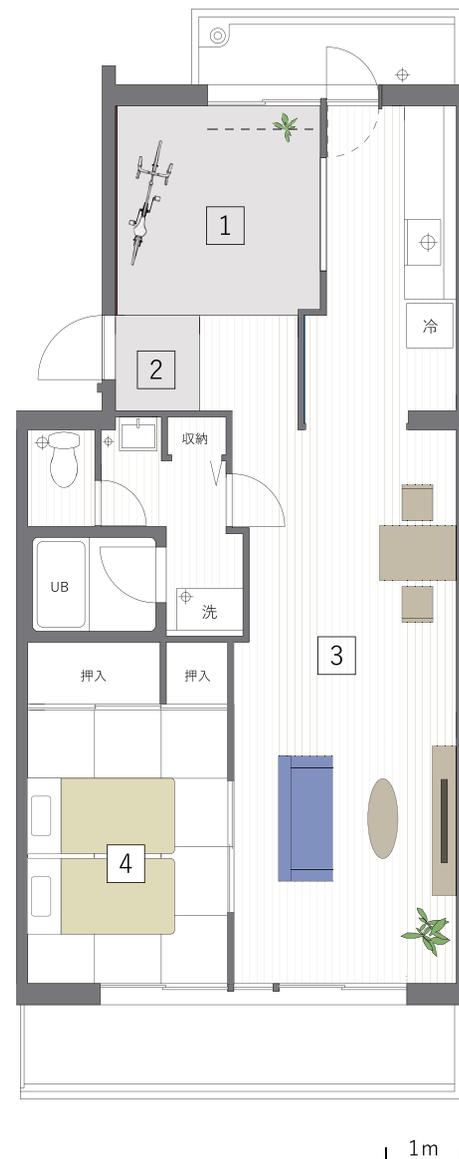
京女×URの住戸に住もうと考える人は、生活において“住”に対するこだわりが強いのではないだろうかと考えました。そこで、居住者がこだわりの住戸を作る手助けができるような住まいを目指しました。



before



after



DATA

面積：63.61 m²
3DK ▶ 1LDK+S

- 1 多目的スペース
- 2 玄関
- 3 LDK
- 4 和室

住まいのポイント

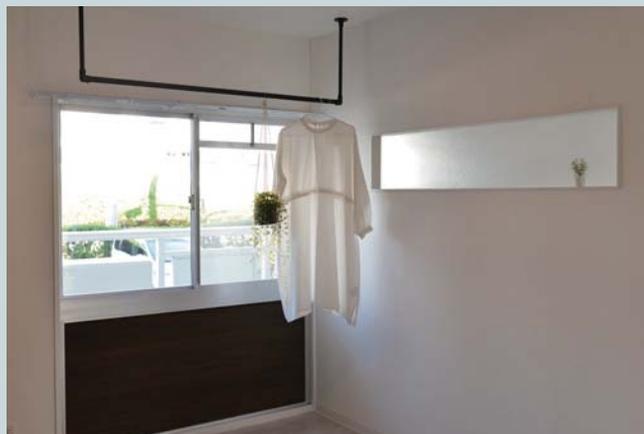
1 多目的スペース

玄関に入って左手の多目的空間は、多様な使い方ができる有孔ボードや吊り下げハンガーを設置しました。ワークスペースや趣味部屋など居住者の方が自由自在に空間をデザインし、おうち時間を楽しむそんな場を作りました。



2 マグネットボード

キッチンの近くの壁に張ったマグネットボードは、買い物リストや予定を貼るのはもちろん、お気に入りの写真や絵を飾り自分らしさを表現できます。また、爽やかなブルーは部屋にアクセントをもたらします。



3 繋がりを感じられる間取り

キッチンと多目的スペースを隔てる壁に窓を設置することで、空間を分けつつ家族とのつながりを感じることができます。また、既存の建具や空間を隔てていた収納を撤去し広いLDKを作ることで、家族の会話が絶えない心地よい空間を作りました。





(左端) 吉村さわさん

設計者の吉村さんにインタビューを行いました!

1 こだわりやポイント

聞き手: 今回設計した「つくり・つながる暮らし」のポイントやこだわりを教えてください。

吉村さん: コンセプトにもある通り『つくる』という面においては、居住者の方がこだわりの住まいをつくる手助けができる空間を目指しました。『つながる』という面においては、団地は人の繋がりが魅力だと考えていて、住戸の中でも家族の繋がりが感じられる工夫をしました。

聞き手: こだわりに沿って具体的にどのような工夫をしましたか?

吉村さん: 『つくる』という面においては、土間を広げて壁の一つの面に有孔ボードを設置することで造り付けの家具を減らしながらも居住者の人が何か新しい空間を作りたくるように工夫しました。『つながる』という面においては、家の中に内窓を設置したりドアを撤去することで繋がりを感ぜられる空間にしました。

2 難しかったこと・苦労したこと

聞き手: 設計中や施工中において難しかったことはありましたか?

吉村さん: まず費用内に収めるということは大学の課題では意識したことがない部分だったので予算内でいかに良い住戸をつくるかという点では難しかったと思います。施工中においては、襖の選定であったり床材や壁紙の選定をする中で、いかに多くの人が暮らしたいと思えるようなものを選ぶかに重点を置いて考えることが大変だと思いました。

3 どのような人に暮らしてほしいか

聞き手: どのような人に暮らしてほしいかイメージはありますか?

吉村さん: ただ住む場所がほしいという方よりは住むことに対してこだわりがある方を想定して考えた住戸で、すでにあるURの住戸は誰でも気兼ねなく住める住戸だと思うんですけど、私の住戸は衣食住における『住』に重点を当てていて、楽しく暮らしたいと考える方がこだわりの住戸をつくって頂きたいなと思います。

4 自分の作品が完成していく様子を見て感じたこと

聞き手: 自分の作品が実際に完成していく様子を見て感じたことはありますか?

吉村さん: 自分が考えた図面であったり、描いたパースが現実になっていく様子を見て、純粹に嬉しかったですし、徐々に出来上がっていく過程を見て、完成したらどんな住戸が出来上がるのかという楽しみもありました。

聞き手: 設計したものとデザインが変わったなどのハプニングはありましたか?

吉村さん: 最初にパースで描いていた通りの住戸ができたので、ハプニングもなかったけど凄く嬉しい感じでした(笑)

5 京女×UR Style2022に参加した感想

聞き手: 最後に京女×UR Style2022に参加してみたの感想をお願いします。

吉村さん: 私は入学以前から京女×URの存在を知っていて京都女子大学に入学する決め手の一つもなった存在だったので本当に参加できて純粹に嬉しかったです、自分の考えたものが実際に施工されるというとても貴重な体験をさせていただいて今後にも繋がる良い機会をいただけたなと思います。

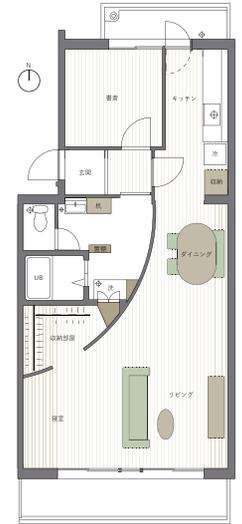
特別賞

つながるひろがるアール壁

濱畑彩さん 藤田唯夏さん
松阪ふうさん 吉岡真央さん

Concept

つながり・一体感。ターゲットに設定した若い世代の家族にとって大切な家族との時間を過ごすことのできる空間を目指しました。



Message

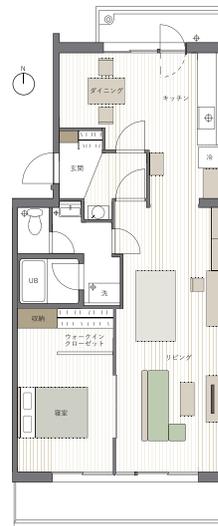
R壁と色を工夫しました。仲間との意見交換と協力の重要さを学び、素晴らしい思い出となりました。貴重な経験に感謝しています。

守る空間、繋がる空間

塩谷佳子さん 清水美菜さん 田中美羽さん

Concept

コロナの流行により生まれた「新しい生活様式」にスポットを当て、新しい生活スタイルと人々の需要を考えた住宅を設計しました。



Message

予算などの難しい点もありましたが、コンセプト実現のために何度も話し合い作り上げた作品を評価して頂けて嬉しく思います。

光と風と暮らす

上田穂佳さん 大澤香里さん

Concept

部屋間の仕切りを曖昧にすることで、光と風が通り抜け、暮らしに合わせた間取りへと対応できる空間を提案します。



Message

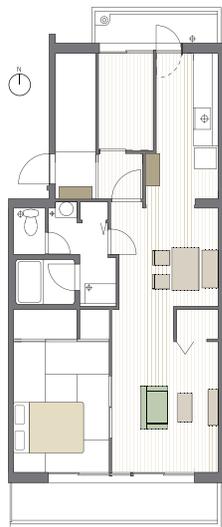
押し入れを一部減築し、自らデザインした格子を入れて窓からの光を柔らかく取り入れたプランが気に入りのポイントです。

変わる暮らし

宮崎愛弓さん

Concept

居住者が自由に空間利用できるような設計しました。寝室の押入は収納以外に作業台として、個室はWCや趣味部屋として利用できます。



Message

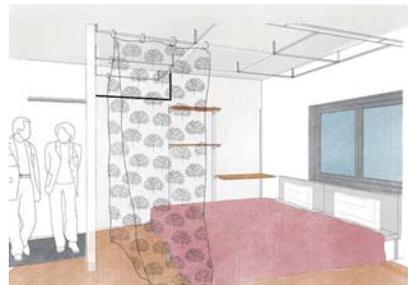
普通の実習では考えられないような予算や仕上げの素材などを考慮しながら、設計するという貴重な経験ができました。

Growing

細川瑞穂さん 松本めぐみさん

Concept

「住む人と一緒に成長していく家」を目指し、暮らしに合わせてグリッドをカーテンで自由にカスタマイズできる空間を提案します。



Message

二人で納得のいくまで考えた作品なので、特別賞をいただいたことに喜びを感じています。貴重な経験もありありがとうございました。

きっかけの家

南若菜さん 矢部奈津子さん

Concept

「新たな一歩を踏み出すきっかけとなる空間」をコンセプトに、収納力・採光・風通し・レイアウトの自由さにこだわりました。



Message

コンセプトを平面図に落とし込む際に苦労しました。今回、特別賞をいただき大変嬉しく思います。ありがとうございました。

自然と暮らす

北山琴葉さん 齊藤有純さん
坂井萌恵さん 左近理江さん

Concept

風と光を部屋に取り入れ、家族の様子を感じられる家を提案します。新設のインナーバルコニーは、居住者らしい使い方ができます。



Message

この度は特別賞をいただくことができて光栄です。4人で案をまとめる難びを克服しましたが、貴重な経験になりました。

Message

プロジェクトについて一言いただきました。



京奈エリア経営部 ストック技術課

既存の枠にとらわれない学生ならではの、柔軟な発想や想いを込めた作品にたくさん触れることができ、貴重な刺激をもらうことができました。

(左から)池口博樹さん・柏木大輔さん・菅原正範さん



株式会社URリンケージ

出来上がりがイメージベースどおりで感動しました。いくつか変更せざるを得ない中でも自分を信じて最後まで頑張ってくれたからだと思います。素晴らしい!

(左から)木下桜さん・吉田綾香さん・松村麗さん・鳥井良浩さん



京奈エリア経営部 佐藤団地マネージャー

アイデアが詰まったたくさんのプランをいただき、甲乙つけがたく選考にはとても苦心しました。皆さまの今後の活躍を期待いたします。ありがとうございました。

佐藤信二さん



技術監理部 企画課

施工プラン以外にも、魅力的な沢山の作品にとてもワクワクするコンペでした。試行錯誤しながらこだわりを形にいく過程は私たちにとっても学びとなりました。

(上部左から)前澤理恵さん・野呂岳史さん
(下部左から)渡邊菜月さん・関谷朋子さん



JS 日本総合住生活株式会社 大阪支社

限られた予算の中で自由な発想の提案に驚かされました。今回の貴重な体験によって今後さらなる活躍をされることを楽しみにしております。

今井崇太さん



京奈エリア経営部 団地マネージャー班

住まい方提案が詰まった設計プラン、その実現に向けた熱意一杯の施工打合せ等、URの業務に参考となるものを沢山見せて頂きました。今後のご活躍が楽しみです。

(左から)河野和彦さん・濱中一郎さん



技術監理部 設計課設備班

様々な制限のある中で、より良いプランになるようみなさんと試行錯誤した事は貴重な経験となりました。この経験がみなさんにとっても糧となれば幸いです。

(前列左から)柴田実里さん・水谷透さん・木津祐太郎さん
(後列左から)渡部雅さん・竹市道秋さん



JS 日本総合住生活株式会社 京都支店 工事課

若い世代が入居したくなる素晴らしいデザインを形にできた事、学生さんの視点・自由で豊かなアイデアに触れた事、プロジェクトに参加できた事、本当に嬉しく思います。

(左から)甲斐高啓さん・田中小夏さん・古岡奈々弥さん



平野 愛さん

今年も設計班と編集班の皆さんと一緒に、家具の置き方などを調整しながら撮影を進行できたのが良かったですね。どのお部屋もとても居心地が良く、楽しい撮影になりました。



京都住まいセンター

みなさんとお話をさせて頂く中で、魅力的で夢のあるプランにたくさん刺激を頂きました。貴重な機会をご一緒させて頂きありがとうございました。

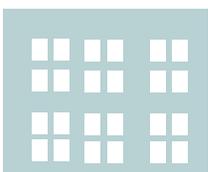
(左から)松葉弘さん・石井絢子さん



株式会社プラトン

イメージ通りの作品になりましたでしょうか?テレビボードの組立、洗面ふかし壁の配管組立は苦勞しました。大変貴重な経験をありがとうございました。

(左から)宗一和さん・竹市匠吾さん





UR都市機構 西日本支社 京奈エリア経営部
熊澤学 部長

今回、このプロジェクトは10年目を迎えましたが、全員で力を合わせてコロナ禍を乗り越え、再開した記念すべき回です。若い感性により生み出された作品の数々は、充実した学生生活の証の一つです。素晴らしいプロジェクトを皆さんと共に進めてくれたことに感謝申し上げます。



UR都市機構 西日本支社 技術監理部
富岡裕史 部長

皆さんが団地を感じる課題点や今後求めたい新しく魅力的な暮らし方・住まいの在り方について、大切な視点をたくさん学ばせていただきました。今後皆さんが色々な場面で活躍されることを楽しみにしております。



京都女子大学
竹安栄子 学長

学生のイメージが現実になるという貴重な機会を提供して下さったURにお礼申し上げます。学生のみならず、この経験を糧に未来に羽ばたかれることを期待しています。



生活造形学科
井上えり子 教授

コロナ以降初めての京女×URでしたが、各チームで工夫して案を検討する時間を捻出してくれました。万全の対策でご準備いただいたURの皆様に感謝申し上げます。

Editor's note 編集後記

京女×UR ストーリーブック制作メンバー

宇田川智子 大澤香里 奥井友衣夏 森崎友貴奈 吉村さわ

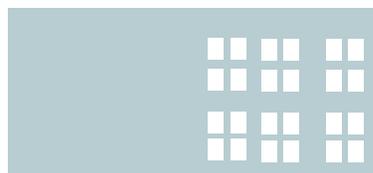
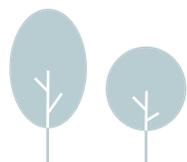
冊子づくりは初めてだったので慣れない作業も多く苦労しましたが、皆で作業を分担しながらスムーズに進めることができました。

優秀賞・学長賞ならびに特別賞を受賞された方々の作品を楽しんでいただけたら幸いです。

最後に、京女×UR Style2022 に携わっていただいた関係者の皆様に感謝いたします。

本当にありがとうございました。





Thank You

京都女子大学 × UR 洛西 NT 団地リノベーションプロジェクト STYLE 2022

対象物件 「洛西福西公園団地」京都市西京区大枝北福西町四丁目1番地1
京都女子大学 <https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/zokei/index.html>
UR都市機構 <https://www.ur-net.go.jp/west/case/kyojo/>
発行元 UR都市機構西日本支社 〒536-8550 大阪府大阪市城東区森之宮1-6-85
発行 2023年1月

※ 本プロジェクトに関する詳細は、左記のURLを御覧ください。
右下のQRコードからもアクセスできます。

※ 本冊子に掲載されている図面及び写真は、生活スタイルをイメージしたモデルルームのものです。家具・什器・小物・一部照明は、標準の仕様には含まれていません。

※ この冊子は、京都女子大学の学生が制作したものです。



UR都市機構